

2020 年度の完成年度を終え、2021 年度入学生から新カリキュラムと旧カリキュラムが並行する。従来とおりの授業の円滑な実施、全科目でのアクティブ・ラーニングの活用を中心に、以下の活動を計画する。

1. 円滑な授業実施 (継続)

全教員間の連携を密にして、授業実施上の問題は速やかに解決する。特に新カリキュラムの実施状況の把握が必要である。また新旧カリキュラムの並行による問題があれば速やかに対処する。

2. FD 勉強会・報告会の開催 (継続)

学部教員全員を対象とする FD 研究会・報告会を開催する。各教員のこれまでの担当授業や新任教員を中心とした研究分野の紹介も継続する。可能な限り対面で実施するが、困難な場合はビデオ会議システムを用いて実施する。

3. FD 講演会の開催 (継続)

FD 講演会を開催し、学部教員の FD 活動に対する意識向上を図る。対面で開催できない場合はビデオ会議システムを用いて実施する。

4. 教育効果の点検評価 (継続)

4 年間の教育効果の具体的な評価方法を検討する。この一環として卒業論文を合同研究室にて一括管理し、優秀論文は学生の承諾を得たうえで在学生に公開可の措置を採っている。

5. 教員相互の授業参観の促進 (継続)

教員相互の授業参観制度を積極的に利用する。また、事前連絡なしに参観できる学部の授業の一覧を作成し、参観実績を学部で集計する。ただし遠隔授業の場合は、予約を必要とする。ビデオ撮影と編集の方法を FD 研究会等で紹介し、各教員が試せるようにする。

6. 研究成果の共有 (新規)

機関リポジトリの運用拡充を活用して、各教員の研究論文等を閲覧できるようにする。さらに SSRA を中心に、紀要の発行を検討する。

7. 新型コロナ禍における遠隔授業について(新規)

2020 年度～2021 年度に実施した遠隔授業に関する FD 研究会を開催し、改善点を明らかにする。

以上